

CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1、ServerProtect for Linux 3.0 同居運用上の注意事項

以下に、NEC CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1(以下 CLUSTERPRO)および ServerProtect for Linux 3.0(以下 SPLX)をインストールし、クラスタリング環境を構成する場合の注意事項を記します。

※本ドキュメントでは、CLUSTERPRO で SPLX のサービスを監視対象としない構成について言及しております。

目次

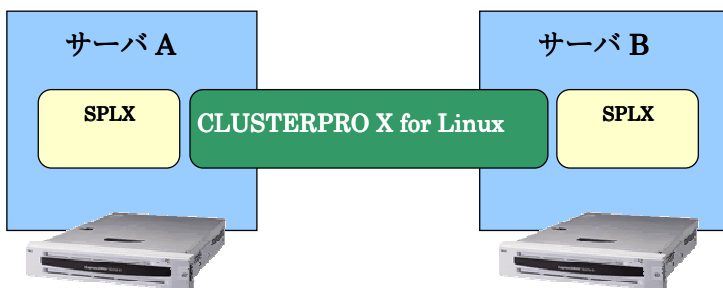
- 1.環境構成概要
- 2.インストール前に準備するもの
- 3.CLUSTERPRO、SPLX 同居運用時の注意事項(既知の制限事項)
- 4.サポートについて
- 5.本ドキュメントにおける使用用語説明

1.環境構成概要

以下に、本ドキュメントでご説明する構成概要を記します。

2 台のサーバでクラスタリングを構成します。

1-1.CLUSTERPRO と SPLX の組み合わせ



本ドキュメントでは、CLUSTERPRO で SPLX のサービスを監視対象としない構成について言及しております。

2.インストール前に準備するもの

- 2-1. CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1 for Linux インストール媒体
- 2-2. CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1 for Linux 最新版アップデート
- 2-3. ServerProtect for Linux 3.0 インストール媒体
- 2-4. ServerProtect for Linux 3.0 SP1
- 2-5. CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1 for Linux インストール&設定ガイド、リファレンスガイド
(CLUSTERPRO のインストール方法、操作方法、各種パラメータの説明などに関しては上記ガイドをご確認ください。)
- 2-6. ServerProtect for Linux インストール&管理者ガイド
(SPLX の一般的なインストール方法に関しては上記インストールガイド、管理者ガイドをご確認ください。)
- 2-7.有効な ServerProtect for Linux 3.0 AC(アクティベーションコード)

3.CLUSTERPRO、SPLX 同居運用時の注意事項(既知の制限事項)

以下の記述は、SPLX のサービスを CLUSTERPRO によって制御しない(SPLX のサービス状態によって failover しない)環境での事項について言及しております。

- 3-1.SPLX 3.0 をインストール後、SP1(Service Pack 1)を適用してください。
- 3-2.共有ディスク(ミラーディスク)を手動検索中に非活性化すると、SPLX のポップアップウィンドウ(手動検索の経過表示)が検索強制終了後もデスクトップ上に残る場合があります。
- 3-3.共有ディスク(ミラーディスク)をリアルタイム検索中に非活性化すると SPLX の検索エンジンが停止する場合があります。この現象は、以下の条件を全て満たすことで、ごく稀に発生する場合があります。
 - ・ディスクのアンマウント異常検出時の強制動作が「強制終了」となっている場合
 - ・ディスクの非活性時に、マウントポイント配下にアクセスするプロセスが存在する場合
(このため、マウントポイント配下でリアルタイム検索が開始されます)これを回避するためには、以下の設定を行ってください。

■設定 1

業務アプリケーションを実行する exec リソースの停止スクリプトの設定で、非活性時に業務プロセスを含む全てのプロセスがマウントポイント配下にアクセスしないように設定してください。

■設定 2

設定 1 を行った上で同様の現象が発生する場合、以下の回避方法の適用を推奨いたします。

= 手順 2-1

共有ディスク(ミラーディスク)非活性化後に実行される exec リソースを追加設定します。

・Cluster Builder にて、業務グループにフォーカスを合わせ、右クリック [リソースの追加] で、exec リソースを選択します。

・start.sh、stop.sh の内容を以下のように設定します。

start.sh

```
#!/bin/sh
#*****
#*                start.sh                *
#*****
exit 0
```

stop.sh

```
#!/bin/sh
#*****
#*                stop.sh                 *
#*****

pgrep vsapiapp

if [ $? -ne 0 ]; then
    /etc/init.d/splx restart
fi

exit 0
```

・依存関係を以下のように設定します。

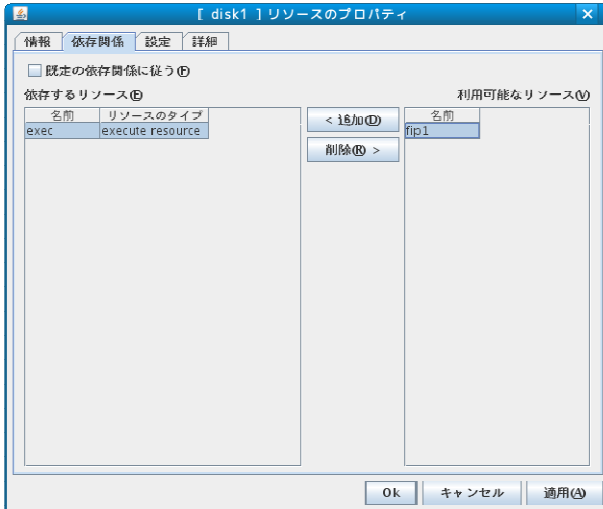
[既定の依存関係に従う] のチェックを外し、[依存するリソース] に fip リソースを追加します。



= 手順 2-2

共有ディスク(ミラーディスク)リソースの依存関係を設定します。

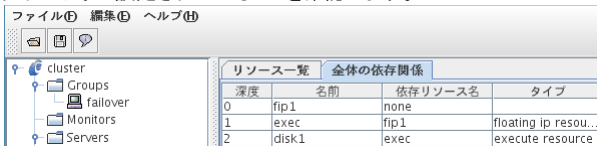
- Cluster Builder にて、業務グループにフォーカスを合わせ、共有ディスク(ミラーディスク)リソースを右クリック [プロパティ] で、[依存関係] タブを選択します。
- 依存関係を以下のように設定します。
- [規定の依存関係に従う] のチェックを外し、[依存するリソース] に手順 2-1 で追加した exec リソースを追加します。



= 手順 2-3

依存関係の確認

- Cluster Builder にて、業務グループにフォーカスを合わせ、[全体の依存関係] を選択し、以下のように設定されていることを確認します。



= 手順 2-4

設定ファイルをアップロード

- Cluster Builder にて、「ファイル」→「情報ファイルのアップロード」をクリックします。
※その際、「クラスタ停止」を要求されます。
Cluster Manager にて、「サービス」→「クラスタ停止」
アップロード成功後、クラスタ起動を実施します。

4. サポートについて

- 4-1. サポート対象は、SPLX 3.0 及び CLUSTERPRO X 1.0 / 2.0 / 2.1 for Linux 両方のシステム要件を満たす OS 及びその kernel となります。
システム要件の詳細に関してはそれぞれのホームページにてご確認ください。
- 4-2. お客様の SPLX のご購入元、サポート契約の内容によってサポートプロセスが異なる場合がございますのでご了承ください。

5. 本ドキュメントにおける使用用語説明

- 仮想 IP アドレス・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有する IP アドレス。
active 機のみ所持する。CLUSTERPRO では fip(フローティング IP)ともよぶ。
- 仮想コンピュータ名・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有するコンピュータ名。
active 機のみ所持する。
- fip・・・「フローティング IP」の略で、CLUSTERPRO における仮想 IP アドレスのこと。
- exec・・・業務グループ活性・非活性時に、スクリプトを実行するリソース。スクリプトに業務アプリケーションの起動・停止を記述することで、CLUSTERPRO から起動・停止を制御可能となる。